修士論文要旨

青年期における自尊感情の研究
－描画法に現れる特徴－

別府大学大学院　文学研究科　臨床心理学専攻
修士課程　M1614001　小野聡子

青年期は、人々が社会に踏み出し新しい世界で活動を始める時期である。青年の自己像は、自己受容と他者からの承認によって形成されていく。そして、筆者は大元にあるものとして「自尊感情」が重要な要素であると考える。本研究は、現代の青年期における自尊感情が描画法にどのように現れるかを検討したものである。まず自尊感情とそれに関連した質問紙を用いて調査し、加えて投映法である描画法を用いることにより、青年の無意識的な自己像と併せて検討した。

調査は、大学生 54 名を対象に質問紙調査と描画テストを行った。質問紙については、フェイスシート、日本語版自尊心測定尺度、他者からの承認に関する尺度、アイデンティティ尺度、ハッピネス尺度を使用した。描画法については、HTP テスト、S-HTP テストを行い、描画後質問票を配布し回答後回収した。

自尊感情を調査する際 1 面的な視点からだけではなく別の視点からも自尊感情は捉えることができるのではないかと考え、影響する要因や構成している要素などを検討した。その結果、今回使用した 4 つの尺度には統計的に相互に強い相関がみられた。このことから、一般に自尊感情とは自分自身に対する肯定的評価として認識されているが、それだけではなく青年自身の“他者から認められている感覚”や“アイデンティティなどの自己理解”、“周囲の環境に対する幸福感”、“自己肯定感”など周囲との関係性も重要な要素であると考えられる。また、描画法を用いることによってそれぞれの尺度に現れる特徴を捉えることができ、自尊感情が意識的側面からだけではなく無意識的側面からも調査できることが明らかとなった。描画への表現について、筆者は描画に表現するということは“意識されやすいもの”が現れるのではないかと考える。描画解釈の多くは、描かれているアイテムに意味付けし解釈や分析をすることが一般的である。しかし、絵に描かれていないということ、つまり、表現されにくいものについての着目は臨床的には重要な視点になるのではないかと考えられる。描画を解釈する際、描画に表現されているという解釈も重要であるが“描かれていない”というところにも着目することは、臨床的には描かれていないということに対する意味を考察することも重要であると考えられる。